

ぶらり散歩東海道は前回までに保土ヶ谷宿から権太坂を経て戸塚までたどり着きましたので、今回は戸塚宿周辺を探訪します。

戸塚宿は日本橋から10里半(約42キロ)の距離にある5番目の宿場です。早朝江戸を出発した旅人の最初の宿泊地として最適の場所で、また大山道、鎌倉道、江の島道の分岐点にあり大変賑わっていました。東の江戸見附と西の上方見附に挟まれた2.3キロの範囲ですが、現在も戸塚区の中心地として賑わっています。

戸塚駅から東海道を離れて踊場駅方面へ

進んだところに「高松寺」があります。臨済宗のお寺で630年以上前に創建され、以降何回か改築されていますが、鐘楼の山門には平成3年に改築された50貫の梵鐘があって、堂々した威容を見せています。広い境内には茶室や富士講碑、像をなでることが供養という「なで仏」(おびんずる様)があり、頭がピカピカに光っています。

東海道に戻って「内田本陣跡」や宿駅伝馬制度の「問屋場跡」、「脇本陣跡」を過ぎた先に「澤邊本陣跡」があります。戸塚宿には大名などが宿泊する本陣が2つあって、この「澤邊本陣」

は間口18間(32.8m)、奥行14間(25.5m)、畳数152畳もありました。明治天皇が東下された時の在所となり、その石柱があります。

戸塚宿には2軒の本陣に加えて3軒の脇本陣がありました。敷地一角に戸塚宿の鎮守の一つで、澤邊家の守り神の「羽黒神社」があります。弘治2年(1556年)の創建です。



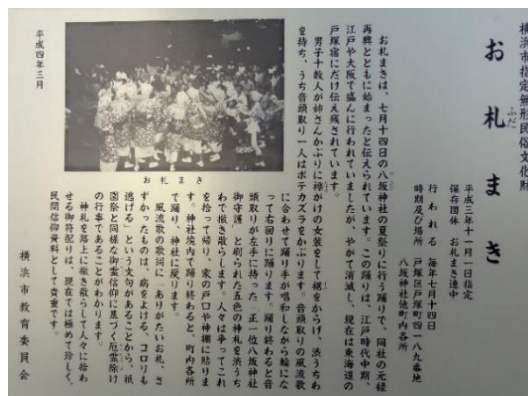


すぐ先に「臨濟宗圓覚寺派」の「海蔵院」があります。坂道を上ると立派な山門が迎えてくれます。見上げると左甚五郎作と伝えられる龍の彫刻が掲げられています。右手に鐘楼がありますが、宿場時代この晩鐘は「戸塚十勝」の一つに選ばれ、親しまれていました。

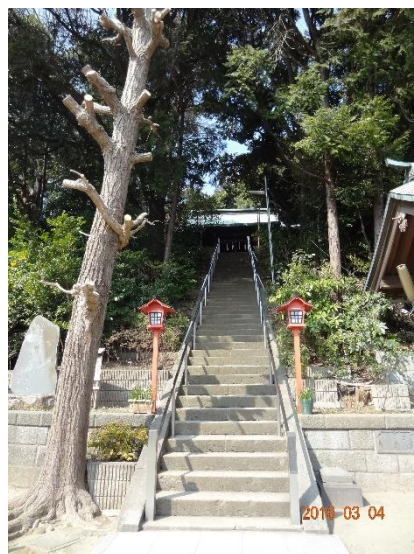


東海道を少し進みます戸塚宿の鎮守「八坂神社」があります。境内では毎年7月14日に「お札まき」という夏祭りが行われます。町内の男性数人が女装し、洪団扇で五色のお札を中天に播きながら踊ります。見物客はこれを

争って拾い、家の戸口や神棚に飾って無病息災を祈願する行事です。横浜市の無形民俗文化財に指定されている江戸時代から伝わる踊りです。私もテレビで見たことがありますが、口紅を塗った男性が女物の浴衣を着て踊る姿には???びっくりしました。



八坂神社の先には戸塚近郷の総鎮社「富塚八幡宮」があります。祭神は菅田別命(応神天皇)と富塚彦命(相模国造二世孫)の2神で、平安時代、前九年の役で源頼義と義家が奥州に下る途中、祭神の神託を受け、そのご加護により戦いに勝利したことを感謝して、延久4年(1072年)に社殿を造り両祭神を祀りました。社殿の後方には富塚彦命の古墳があり、これを富塚と称したことにより、戸塚の名称が発祥したと伝えられています。現在全国に散らばる戸塚姓・富塚姓の守護神です。境内には芭蕉の句碑があります。「鎌倉を生きて出でけむ初松魚」鎌倉で水揚げされた初鯉は戸塚を通過して江戸に運ばれたことにちなんだ句です。





富塚八幡宮から左手に少し入って行くと「親縁寺」があります。区内唯一の時宗の寺で、元応元年(1319年)遊行寺の呑海上人が開いたとされています。境内には地藏堂、阿弥陀如来立像、高浜虚子句碑などがあり、広い墓地とモダンな葬儀場を擁する大きな寺院です。



東海道に戻って少し進みますと「上方見附跡」が出てきます。戸塚宿を挟んで江戸側の「江戸見附」と並んで京

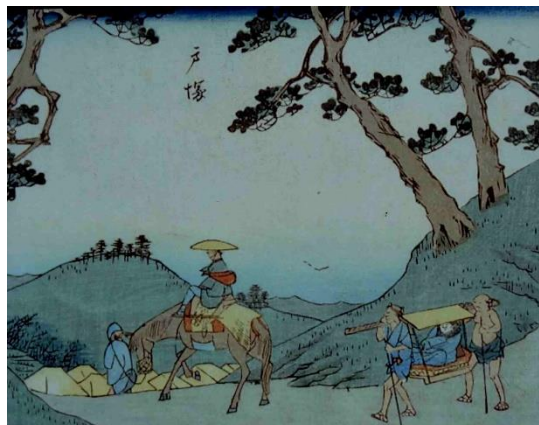
都側に位置する見附です。ここは大坂下といわれ、この先の「第六天宮」から始まる長大な「大坂」の起点です。



さらに進みますと「第六天宮」の扁額の架かる鳥居が出てきます。古事記・日本書紀で第六番目に出現したとされる面足命・皇根命が祭神です。相模国や武蔵国に数多く存在する神社の一つで、由緒のある神社のようですが、鳥居と小さな社殿残っているだけです。近くの道端に庚申塔が7基並んでいます。江戸時代の初め頃に建てられたもので、「見ザル・言わザル・聞かザル」の三猿が足元に刻まれた石碑もあります。



第六天過ぎると長い上り坂「大坂」が始まります。戸塚宿から藤沢宿へ向かう時いきなり出合う難所でした。現在は頂上を削って少しなだらかになりましたが、昔はもっと急勾配で、晴れた日には松並木の向こうに富士山が見える場所で、広重の版画にも刻まれています。標高差 40 メートルを登り切ると大坂上に到着し横浜新道と合流します。中央分離帯には松が植えられている横浜新道は、渋滞の名所で現在も交通の難所です。



横浜新道を少し進むと「お軽勘平・戸塚山中道行」の碑が出てきます。「歌舞伎仮名手本忠臣蔵」のお軽勘平「戸塚道行の場」に因んで作られたものです。



「戸塚道行の場」は忠臣蔵 3 段目裏です。塩谷判官(史実では浅野内匠頭)に仕える早野寛平は、腰元お軽と逢い引きしていて、松の間の刃傷の場に居合わせることができなかつたとい失態を犯しました。そのためお軽の実家がある山城国山崎に二人で落ちのびていきます。その途中、戸塚大坂で高師直(史実では吉良上野介)の家来鷲坂伴内が追いつがり大立ち回りになります。勘平は首尾よく伴内を撃退し、お軽と手に手を取って山崎を目指します。大坂は箱根に次ぐ東海道の難所で、女連れには過酷な旅だったことが容易に想像できる場所として選ばれたのでしょう。天保 4 年(1883 年)の初演では、勘平を 5 代目市川海老蔵、お軽を 3 代目尾上菊五郎、伴内を尾上梅五郎が演じました。富士の絶景をバックに口説きと大立ち回りのシーンに観客は魅了されました。47 人の忠臣から落ちこぼれた美男の勘平と美女お軽の道行に、江戸の庶民は心をとくめかしたのでしょう。

横浜新道に面して「原宿一里塚跡」があります。江戸から 11 番





目の一里塚で、塚の付近には茶店などがあって、原宿と呼ばれるようになりました。当時は松の木が植えられていたようですが、今は草に覆われた解説板だけが立っています。

一里塚の先の右手に「浅間神社」の鳥居が見えて来ます。室町時代の16世紀永禄年間に、当時盛んであった富士信仰を基に安全祈願のため勧請されたと言われています。神社に続く参道と境内に、樹齢600年を超える見事な椎の木が数本あって、横浜市の名木古木に指定されています。



新道をさらに進むと浄土宗の「大運寺」があります。慶長元年(1596年)に創建され、本尊は阿弥陀如来です。現在は周囲に住宅が迫ってきて、境内は狭まっていますが、昔はもっと広く、弘法池も境内にあったようです。弘法大師作の石地藏が本堂に祀られています。



ここから先は原宿の交差点を過ぎて遊行寺と藤沢宿への道が続きますが、今回のぶらり散歩東海道はここまでにします。

以上